取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、
ご使用の前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。

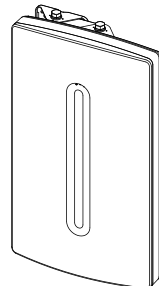
DIGITAL

UHFオールチャンネル（ch.13〜62）対応

DIGICATCH

地上デジタル放送用平面アンテナ

［ブースター内蔵、水平・垂直共用、出力75Ω（F形座）仕様］

UAD1800

製品の特長

- ブースター内蔵により、当社の地上デジタル放送用20素子相当平面アンテナに外付けブースターを取り付けた受信システムと比較して、より高性能な実力を発揮します。
- 水平、垂直の両偏波受信対応で、ケーブル接続・引き回しが容易な背面出力端子を採用。壁面取付時でも水平偏波受信時の可動範囲は左右各60度で、電波到来方向への最適な角度で設置できます。
- 出力モニター端子を装備していますので、設置・配線後の方向調整が容易です。
- 取付金具は、壁面だけでなくマスト（φ22〜49mm）や角柱（30×30mm〜45×45mm）、市販のステンレスバンドにも対応した多用途設計です。
- 水平偏波受信、垂直偏波受信、屋外、屋内のそれぞれの設置に対応しています。（付属スタンドを使用した場合、垂直偏波受信には対応できません。）
- 樹脂ケースで覆われたアンテナ部には直接の積雪がなく、性能劣化が少ない構造です。
- 取り付けの際に片手でアンテナを支えることができる背面の持ち手構造や先端加工不要で抜け落ち防止の防水キャップを採用し、取り付けが容易です。
- 付属の電源部は余裕ある電源容量で、BS・110度CSアンテナにも電源を供給できます。
- 土壌汚染・大気汚染など環境に影響を与える物質や人体に悪影響を及ぼす物質を使用しない事、消費電力を削減する事など厳しい自社基準をクリアーした製品です。

安全上のご注意

	△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は接触禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は注意して行なってください）が描かれています。

警告

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- アンテナ工事およびテレビ受信関連工事には技術と経験が必要ですので、お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。

- 表示された電源電圧（AC100V 50/60Hz）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- この製品に接続する同軸ケーブルには、テレビ電波以外に電流が流れることがあります。電源コードや同軸ケーブルなどを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、（熱器具に近づけたり）引っぱったりしないでください。火災・感電の原因となります。電源コード、同軸ケーブルなどが傷んだときは（心線の露出、断線など）お買い上げの販売店もしくは工事店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電などの原因となります。

⚠ 警告

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

● 次のような場所には設置しないでください。

<アンテナ>

・送配電線、ネオンサイン、電車の架線や電話線などの近く
　アンテナが倒れた場合、感電、断線の原因となります。

・人や車両の通行の妨げになる場所
　人がぶつかったり、車両が接触してけがや破損の原因となります。

・地盤の弱い場所、強度の弱い場所、不安定な場所、ぐらついたり振動する場所や傾いた場所
　落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

・煙突の付近や高温になる場所
　火災の原因となります。

<電源部>

・屋外、風呂場や洗い場など水がかかる場所や水などの入った容器の近く
　電源部は屋内専用です。火災・感電の原因となります。

・直射日光の当たる場所や調理台、加湿器のそばなど高温になる場所、油煙や湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所
　火災や破損の原因となります。

・強度の弱い場所、不安定な場所、ぐらついたり振動する場所や傾いた場所
　落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

● 設置やお手入れ、点検をする際には、次のことにご注意ください。

・高所などでは、足場と安全を確保して行なってください。
　落ちたり、すべったりしてけがの原因となります。

・組み立てや取り付けのネジやボルトは、締め付け力（トルク）に指定がある場合はその力（トルク）で締め付け、堅固に固定してください。
　落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

・風の強い日や雨、雪、霧などの天候が悪い日は、危険ですから設置工事やお手入れ、点検をしないでください。
　落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

・アンテナの部品や工具類を高い所から落とさないでください。
　けがの原因となります。

・アンテナや電源部のケースを開けたり、分解して内部に触れないでください。
　感電やけがの原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店もしくは工事店にご依頼ください。

・万一、電源部の内部に水などが入った場合や煙が出たり、変な臭いがする場合は、すぐにこの電源部の電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店もしくは工事店にご連絡ください。
　そのまま使用すると火災や感電の原因となります。煙や臭いがなくなるのを確認して販売店もしくは工事店に修理をご依頼ください。

● 雷が鳴り出したら、アンテナやケーブルには触れないでください。
感電の原因となります。

● 雷電源部の取り扱いについて、次のことに注意してください。

・電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
　電源コードを引っぱるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

・ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
　感電の原因となることがあります。

・電源部の上や周囲にろうそく灯など炎が発生しているものを置かないでください。
　倒れたりして火災の原因となります。

・電源部にテーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや布団の上に置かないでください。
　内部に熱がこもり、火災の原因となります。

⚠ 注意

この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

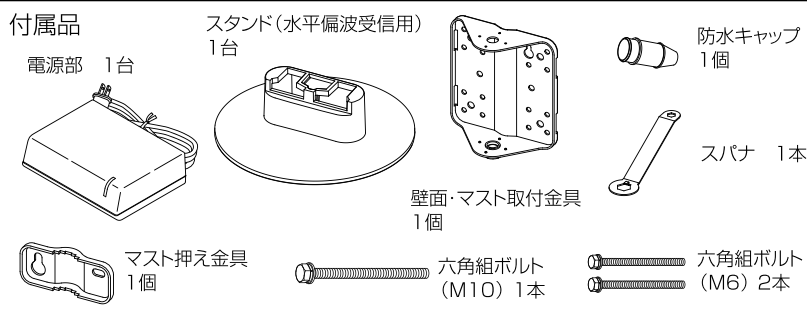
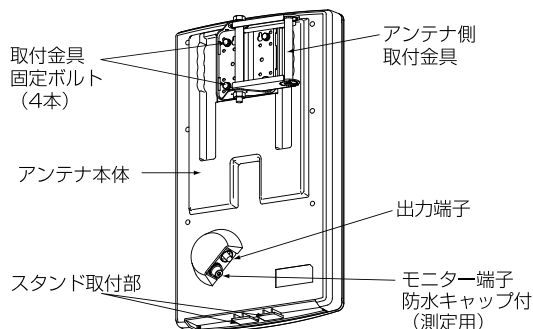
● 台風の後や積雪の後などは、アンテナや取付装置に緩みや異常が生じることがあります。そのままにすると破損したりして、けがや故障の原因となることがあります。点検はお買い上げの販売店または工事店にご依頼ください。

● アンテナや取付装置などに洗濯物や他の物品を掛けたりしないでください。
電源部の上に乗らないでください。
倒れたり、破損したりして、けがの原因となることがあります。

● マンションやアパートなどによっては、取り付けに規制のあるところがあります。管理組合、管理事務所、自治会などに必ずご確認のうえ、取り付けてください。

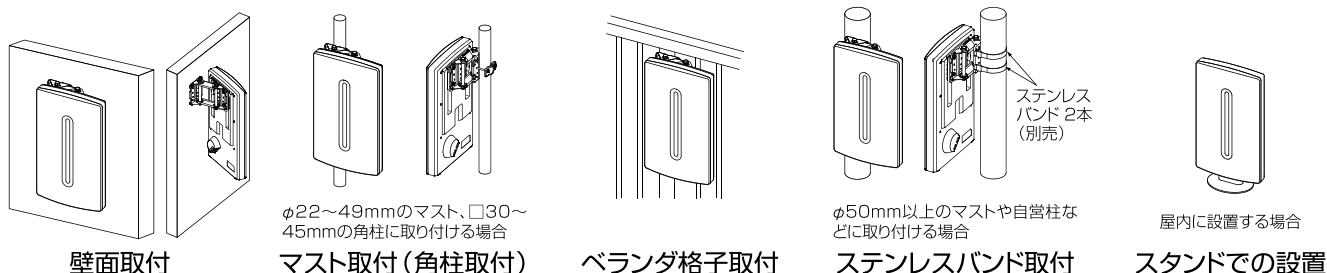
お取扱いの前に

- 組み立て、取付作業は、この取扱説明書をよくお読みのうえ行なってください。
- 強風の時や、雨や雪など天候の悪いときは危険ですから、取付作業は行わないでください。
- アンテナを落としたり、ぶつけたり、無理な力を加えることのないよう注意してください。
- 壁面やマスト、ベランダ等に取り付ける場合、設置場所の強度に注意し、また長期にわたり台風などの強風に耐えるように強固に固定し、落下、転倒しないよう安全性と信頼性を十分に考慮してください。

各部の名称

使用例

- このアンテナは壁面に取り付けるだけでなく、付属品のマスト押え金具を使用してφ22～49mmのマストや30×30mm～45×45mmの角柱に取り付けることができます。市販のステンレスバンドを使用すると、φ50mm以上のマストにも使用できます。
- 付属のスタンドを利用して屋内に設置することもできます。（水平偏波受信のみ）

〈アンテナの組立完成図〉

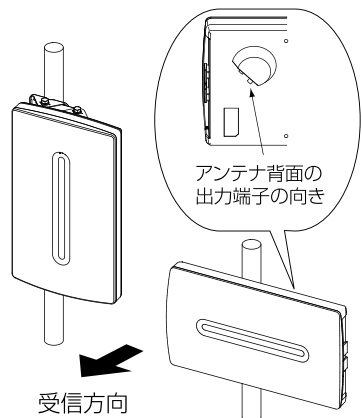
壁面取付　マスト取付（角柱取付）　ベランダ格子取付　ステンレスバンド取付　スタンドでの設置

平面アンテナの設置作業をはじめる前に、受信する電波の到来方向を確認して、受信できる設置場所をお選びください。
接続例は5ページをご覧ください。

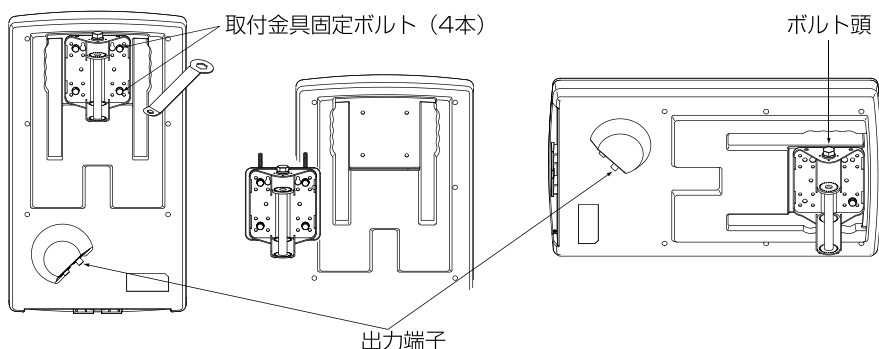
受信偏波とアンテナの向き

受信する電波の偏波面に合わせてアンテナの取付方法を下図のように変えてください。（出荷時は水平偏波受信用となっています）

アンテナ本体の出力端子が斜め下向きになるように取り付けてください。

〈アンテナの向き〉

水平偏波受信　垂直偏波受信

〈垂直偏波を受信するとき〉

①アンテナ本体の背面に付いている取付金具を付属のスパナを用いて一度取りはずします。

②アンテナ本体の向きを90度回転させてから、はずした取付金具を付け直します。このとき取付金具のボルト頭が上側に、出力端子が斜め下向きになるように取り付けてください。

アンテナの取付方法

平面アンテナを取り付ける前に、電波が受信できることをあらかじめご確認ください。

屋外設置

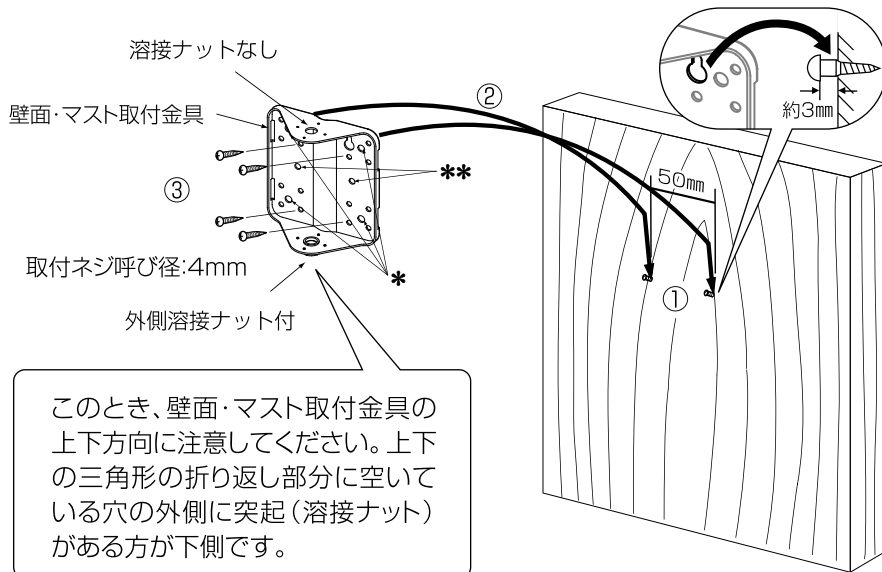
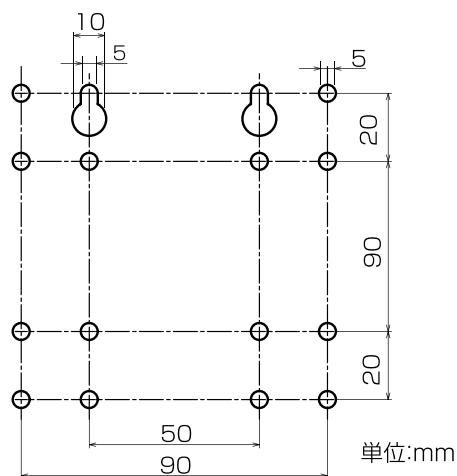
はじめに、付属の壁面・マスト取付金具を固定し、その後アンテナ本体を取り付けます。

〈壁面に取り付ける場合〉

①市販の木ネジなど2本をネジ頭が3mm程度出た状態に取り付けます。
②木ネジに付属の壁面·マスト取付金具を引っ掛け、木ネジを締め付けます。
③他の穴も利用して、壁面·マスト取付金具を6か所以上木ネジなどで壁面に強固に固定します。

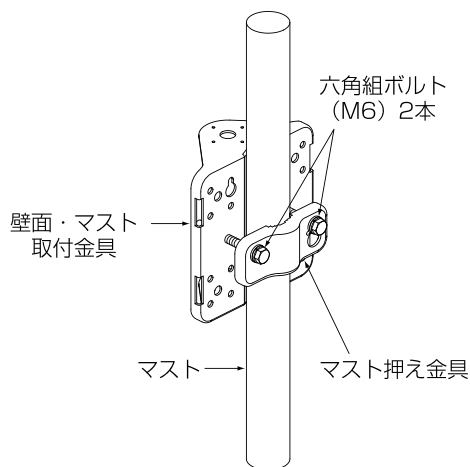
このとき、壁面·マスト取付金具の上下方向に注意してください。上下の三角形の折り返し部分に空いている穴の外側に突起（溶接ナット）がある方が下側です。

（注）十分な強度のある壁面に取り付けてください。

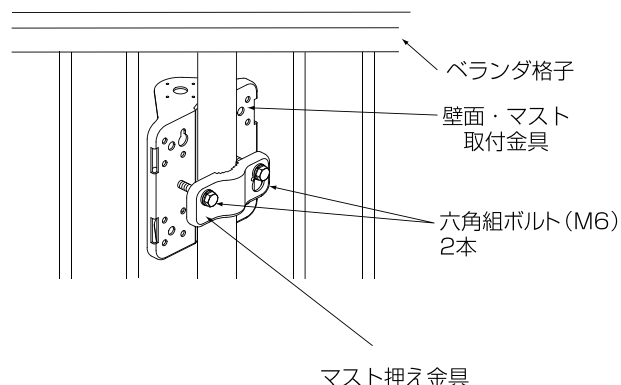
壁面·マスト取付金具の木ネジ穴ピッチ図

*印と**印の取付穴は六角ボルトM6用です。

※イラストでは板壁と木ネジで説明していますが、取付金具の穴に合う、壁面の材質に適したネジ類をご使用ください。詳しくは工務店にお問い合わせください。

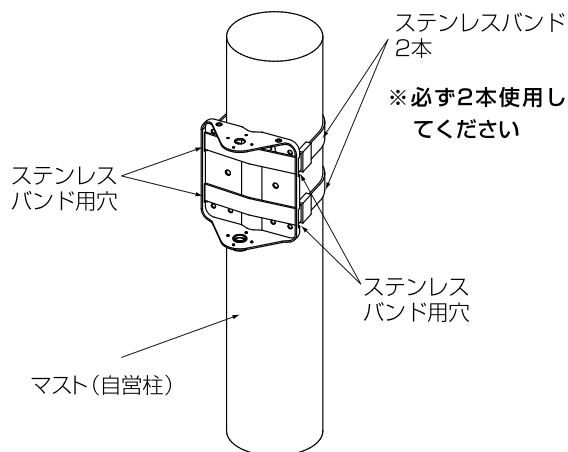
〈マスト／角柱に取り付ける場合〉

図のように、付属のマスト押え金具と壁面·マスト取付金具とでマストを挟み込み、六角組ボルト（M6）2本で左右均等に締め付け固定します。

直径22～49mmのマスト、30×30mm～45×45mmの角柱に取り付けることができます。イラストはマストで代用していますが、角柱の場合も同様に取り付けてください。

〈ベランダ格子に取り付ける場合〉

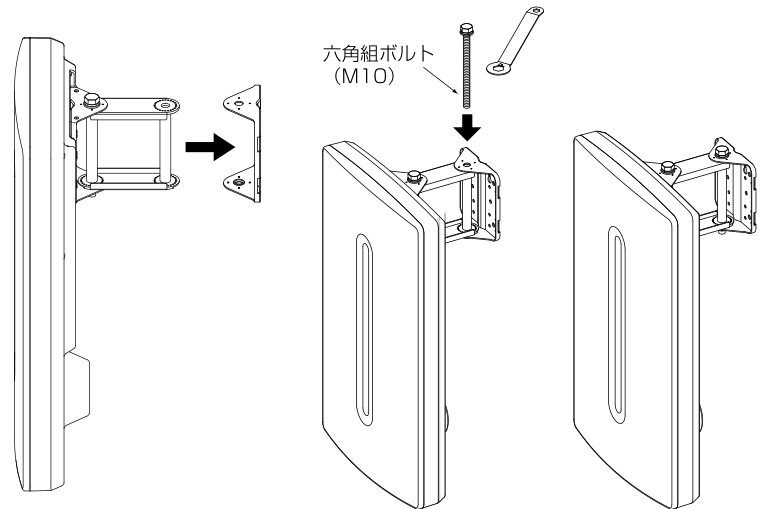
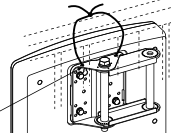
図のように、ベランダ格子の太さ直径22～49mm、または30×30mm～45×45mmの角柱部分を壁面マスト取付金具とマスト押え金具とで挟み込み六角組ボルト（M6）2本で左右均等に締め付け固定します。

六角組ボルト（M6）締付トルク　4～5N·m

〈市販のステンレスバンドで取り付ける場合〉

図のステンレスバンド用穴4か所にステンレスバンドを2本かけてマストに固定します。

適合ステンレスバンド幅：20mm以下

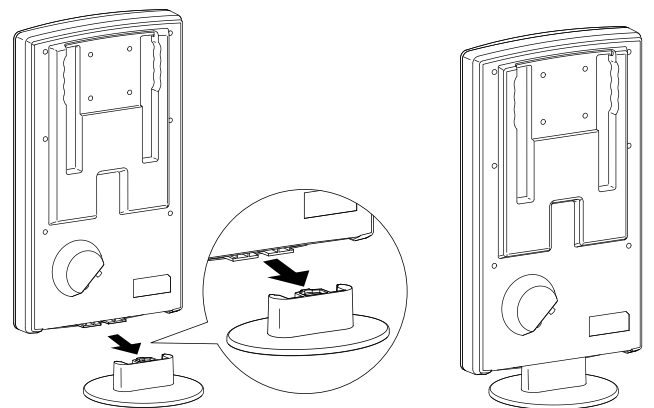
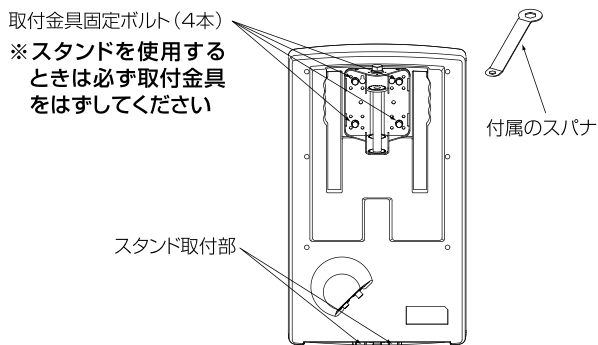
〈アンテナ本体を壁面・マスト取付金具へ取り付ける方法〉

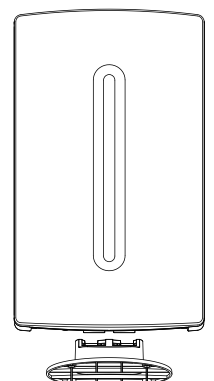
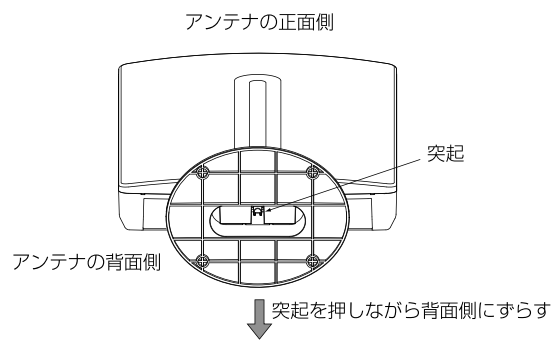
①先に取り付けた壁面・マスト取付金具の上下穴に平面アンテナ背面の取付金具の上下穴を合せます。両方の金具が平行になるようにアンテナ側取付金具を差し込みます。

②下側の穴どうしがはまったところで、六角組ボルト（M10）を上側の穴から通して付属のスパナで仮止めします。

（ご注意）
落下防止のため固定ロープ（市販品）を使用して作業してください。

屋内設置

〈スタンドの取付け〉

①まず、アンテナ本体に付いている取付金具をはずします。金具固定ボルト4本を付属のスパナでゆるめて、取付金具全体を取りはずしてください。（取付金具は保管しておいてください。）

②図のように、アンテナ本体底面のスタンド取付部が付属のスタンドのガイドに沿うように、アンテナの背面側からはめ込みます。スタンドはストッパーがカチッとはまるまで奥に入れてください。

〈スタンドの取りはずし〉

スタンドをはずすときは、スタンド底面の突起をアンテナ側に押してください。突起を押しながらスタンドをアンテナ背面側にずらすとストッパーがはずれて、スタンドをアンテナからはずすことができます。

平面アンテナの接続例

〈接続例と手順〉

①アンテナ本体と付属の電源部、地上デジタル放送チューナーまたはテレビを同軸ケーブル（別売）で接続します。電源部の「ブースタへ」にアンテナの出力端子側同軸ケーブルを、「テレビへ」に地上デジタル放送チューナーまたはテレビ側同軸ケーブルを接続してください。アンテナと電源部の間に分配器等を接続する場合は、通電仕様の機器を使用し、電源部は通電端子に接続してください。

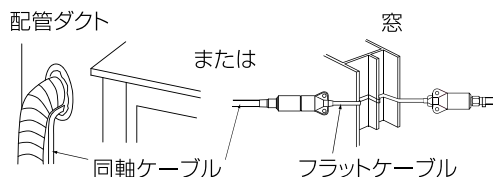
②レベルチェッカーを使用する場合はアンテナ本体のモニター端子に接続してください。
チェッカーを使用しない場合は、地上デジタル放送チューナーやテレビのアンテナ設定等でアンテナレベルを確認できるようにしてください。（詳しくはご使用の地上デジタル放送チューナーやテレビの取扱説明書をご覧ください。）

- アンテナ本体のモニター端子側に同軸ケーブル（別売）でレベルチェッカー等を接続して出力レベルを測定できます。この端子では実際の受信レベルより約20dB低い値でモニター出力されます。

③受信レベルが最大になるようにアンテナの方向を調整してください。

詳細は各項目をご覧ください。

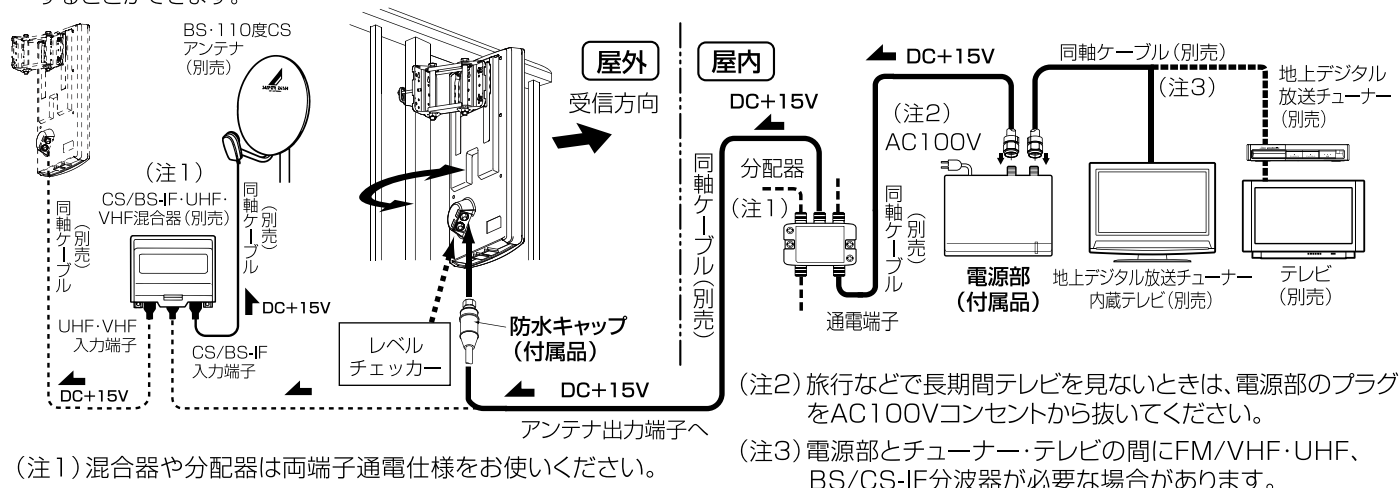
屋内配線のポイント

同軸ケーブルを屋内へ引き込むには配管ダクト（クーラー穴）を利用するか窓のすきまを通すフラットケーブル（別売）を使用すると便利です。

※BS・110度CSアンテナを設置する場合にも付属の電源部から電源を供給することができます。

DC+15V
同軸ケーブル（別売）
通電端子
（注2）AC100V
電源部（付属品）
同軸ケーブル（別売）
（注3）
地上デジタル放送チューナー（別売）
地上デジタル放送チューナー内蔵テレビ（別売）
テレビ（別売）

（注1）混合器や分配器は両端子通電仕様をお使いください。

（注2）旅行などで長期間テレビを見ないときは、電源部のプラグをAC100Vコンセントから抜いてください。

（注3）電源部とチューナー・テレビの間にFM/VHF・UHF、BS/CS-IF分波器が必要な場合があります。

アンテナ本体への同軸ケーブル（別売）の接続方法

〈屋内で使用する場合〉

- 屋内で使用する場合は、付属の防水キャップを使用する必要はありません。
- 別売のF形接栓加工済の同軸ケーブルをアンテナ本体の出力端子に接続して使用してください。

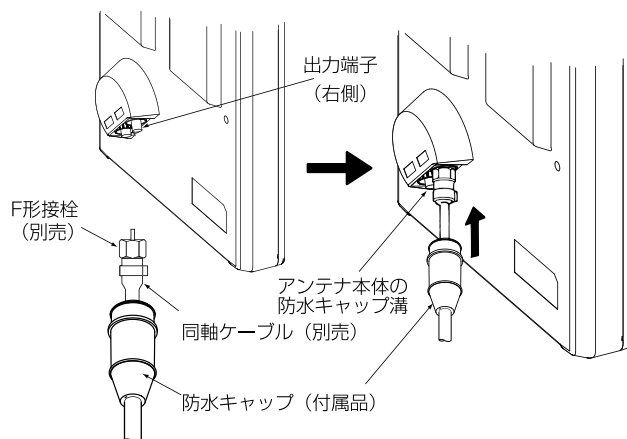
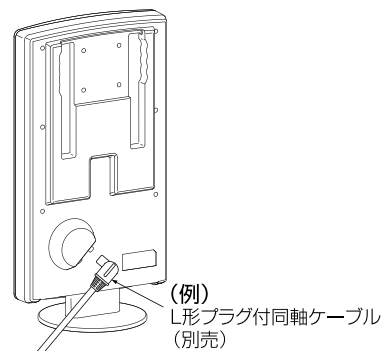
（注）差込式プラグの場合、長期間使用すると自然に抜け落ちることがありますので、時々接続状態をたしかめてください。

〈屋外で使用する場合〉

- 同軸ケーブルはできるだけ4Cまたは5Cケーブルのご使用をお勧めいたします。接栓は同軸ケーブルに合わせた製品を別途お買い求めください。

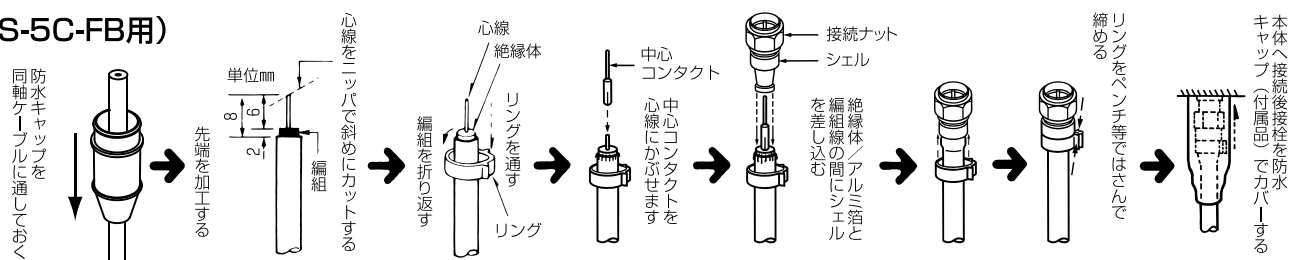
①防水キャップ（付属品）は同軸ケーブルの先端を加工する前に通しておいてください。（周囲が低温時等、ケーブルを通しにくい場合は強く押し込んでください）

②同軸ケーブル先端にF形接栓を取り付けた後、アンテナ本体背面の出力端子にしっかりと確実に接続してください。
（接栓締付トルク　2N・m）

③F形接栓をアンテナ本体に接続した後、防水キャップ（付属品）をアンテナ本体の防水キャップ溝の奥まで確実に差し込んで接栓部を雨水などからカバーしてください。

防水キャップ（付属品）使用時の同軸ケーブルと接栓の接続方法

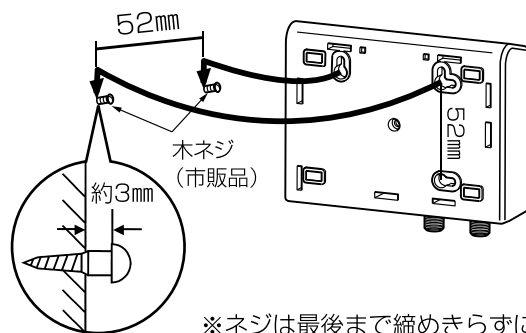
〈F-5SN接栓（別売）への同軸ケーブル（別売）の接続方法〉

5C相当同軸ケーブルにF-5接栓（5C同軸ケーブル用接栓）を取り付ける場合の加工例です。

（S-5C-FB用）

- 同軸ケーブルの先端を加工する場合、心線・編組に傷をつけたり上記加工以外の加工をすると断線やショート、機器の破損の原因になりますのでご注意ください。また心線と編組は、絶対に接触しないようご注意ください。
- 接栓を取り付けた同軸ケーブルの心線は、曲がっていないかを確認し、曲げないように接続してください。
- 設置した後で抜けたりしないように、同軸ケーブルのリングはしっかりと締めてください。
- 接続する同軸ケーブルの接栓の取り付けは、その同軸ケーブル専用の接栓を説明書通り加工してご使用ください。特殊な加工をしたものを使用すると特性の悪化や機器の破損につながります。

電源部の設置と同軸ケーブル（別売）の接続方法

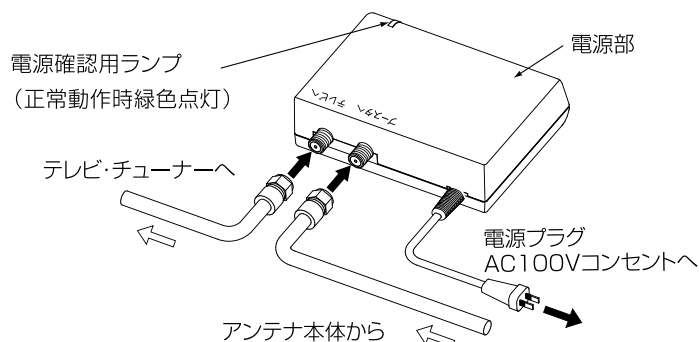
〈電源部の板壁への取付〉

- 電源部は据え置きするだけでなく、底面の壁掛用木ネジ穴を利用して、図のように柱または板壁に取り付けることができます。
  また、縦方向にも同じネジ穴の間隔で取り付けることができます。

※ネジは最後まで締めきらずに約3mm手前でとめる。

〈電源部と同軸ケーブルの接続〉

- アンテナ側の同軸ケーブルを電源部の「ブースタへ」に、テレビ･チューナー側の同軸ケーブルを「テレビへ」に接続してください。
- 電源プラグをAC100Vコンセントに接続することで、電源がONとなり、電源確認用ランプが緑色に点灯します。電源プラグをコンセントに差し込んだときは、必ず電源確認用ランプの点灯を確認してください。

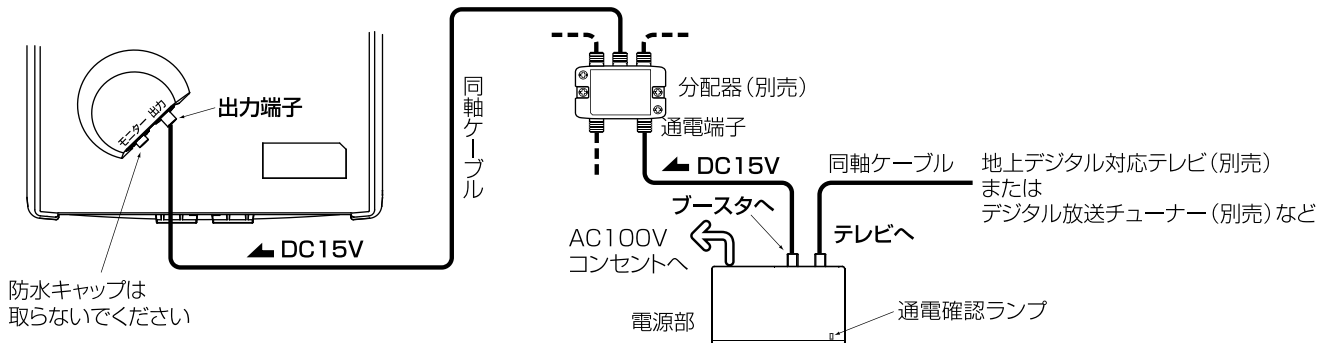
〈ご注意〉

- この電源部には電源スイッチはありません。万一、煙が出るなど異常が生じたら、ただちに電源プラグを抜いてください。
- アンテナやテレビ、チューナーへのケーブルを接続後、電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み電源をONしても、電源確認用ランプが緑色に点灯しない場合、F形接栓加工不良などによるショートの可能性があります。ただちに電源プラグを抜き、接続を確認してください。

この電源部からは、BS・110度CSアンテナ用に電源を供給できます。
接続しているチューナーやテレビのアンテナ設定では「アンテナ電源を供給しない」にしてください。

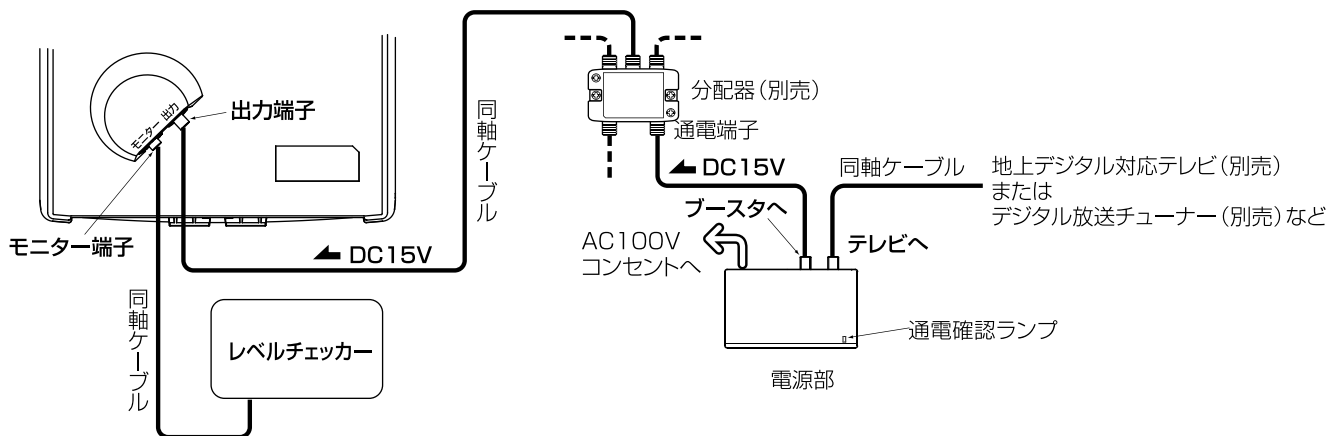
受信レベルとアンテナ方向の調整方法

平面アンテナの方向は、実際に電波を受信して、レベルチェッカーまたは地上デジタルチューナー内蔵テレビや地デジチューナーのアンテナ設定等を確認しながら、C/N値や受信レベルが最大になるように調整します。まず、アンテナ本体の出力端子、電源部、地上デジタルチューナー内蔵テレビや地デジチューナーの入力端子をそれぞれ別売の同軸ケーブルで接続してください。
レベルチェッカーを使用する場合は、アンテナ本体のモニター端子に接続してください。

〈地上デジタルチューナー内蔵テレビや地上デジタルチューナーを使用する場合〉

①アンテナ本体の出力端子と付属の電源部、地上デジタル放送チューナーまたはテレビを同軸ケーブル（別売）で接続します。
必要に応じてアンテナと電源部の間に分配器などを使用する場合は、必ず電源部は使用機器の通電端子に接続してください。電源部は、アンテナ本体の出力端子側同軸ケーブルを「ブースタへ」に、「テレビへ」に地上デジタル放送チューナーまたはテレビ側同軸ケーブルを接続しますが、電源プラグはまだコンセントに差し込まないでください。

②接続が完了してから電源部の電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み電源をONにして、テレビ画面にアンテナ設定等を表示し、アンテナレベルを確認しながら数値が最大となるようにアンテナの方向を調整します。（8ページ参照）

〈レベルチェッカーを使用する場合〉

①アンテナ本体の出力端子と付属の電源部、地上デジタル放送チューナーまたはテレビを同軸ケーブル（別売）で接続します。
必要に応じてアンテナと電源部の間に分配器などを使用する場合は、必ず電源部は使用機器の通電端子に接続してください。電源部は、アンテナ本体の出力端子側同軸ケーブルを「ブースタへ」に、「テレビへ」に地上デジタル放送チューナーまたはテレビ側同軸ケーブルを接続しますが、電源プラグはまだコンセントに差し込まないでください。

②アンテナ本体のモニター端子に付いている防水キャップを取りはずし、同軸ケーブル（別売）でレベルチェッカー等を接続します。
③接続が完了してから電源部の電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み電源をONにして、レベルチェッカーでC/N値や受信レベルを測定します。
　モニター端子は実際の受信レベルより約20dB低い値が出力ます。
　また、C/N値も実際の値より悪く表示されることがありますが、最大値になるように調整してください。
④C/N値や受信レベルが最大となるようにアンテナの方向を調整します。（8ページ参照）
⑤アンテナの方向調整が終了すると、レベルチェッカーを取りはずします。**アンテナ本体のモニター端子には防水キャップをしっかりと奥まで取り付けてください。モニター端子は測定用の端子です。測定以外の用途では使用しないでください。**

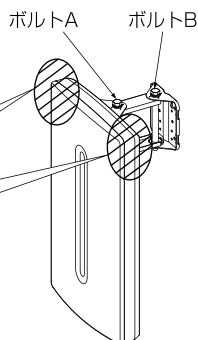
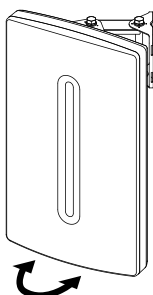
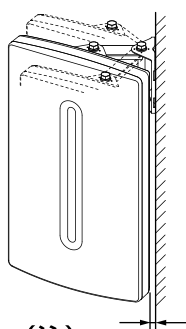
アンテナの方向調整

電波を受信して、レベルチェッカーまたは地上デジタルチューナー内蔵テレビや地デジチューナーのアンテナ設定等を確認しながら、受信レベルが最大になるように平面アンテナの方向を調整します。

〈屋外設置の場合〉

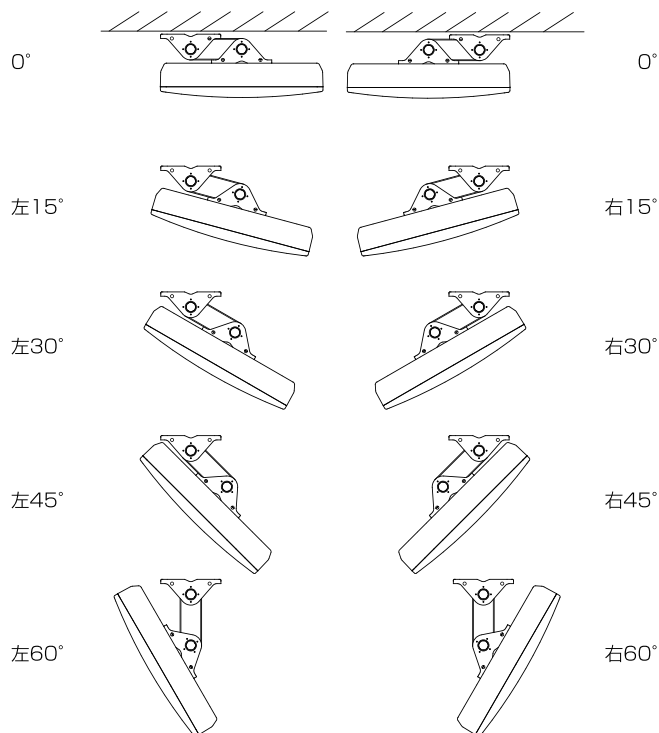
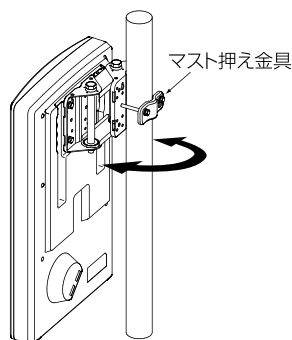
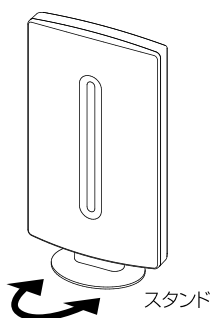
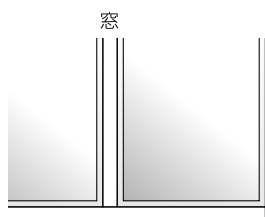
ボルトA　ボルトB

①ボルトA、Bをゆるめます。

アンテナの方向調整するときは、取付金具に手をはさまないようにこの位置を持って動かしてください。

②「取付金具の位置図」を参考にして、平面アンテナを左右に動かし、受信レベルが最大になるようにアンテナの角度を調整します。
　※壁面に取り付けたときに調整できるアンテナの角度は左右ともに60度までです。

③アンテナ側面が壁面から1.5cm以上離れていることを確認してください。

④ボルトA･Bをしっかりと強固に固定します。

六角組ボルト（M10）締付トルク 9〜10N･m

（注）
1.5cm以上離します

※マストに取付時はマスト押え金具のボルトをゆるめて、マスト押え金具からアンテナまでの全体を回して角度調整することもできます。

アンテナと取付金具を図のような角度で固定することで、アンテナをより安定させ、壁面からの突出が少ない省スペース設置ができます。

〈屋内設置の場合〉

- 屋内で使用する場合は、スタンドを利用して良好な受信ができるようにアンテナの方向を調整します。

窓際などでアンテナの向きをいろいろかえながら最も良く受信できるアンテナの向きを探してください。
屋内に設置して良好な受信ができない場合は、ベランダなどの屋外に設置することをお勧めします。

アンテナの方向調整のつづき

〈こんなときは〉

平面アンテナの方向は、実際に電波を受信して、レベルチェッカーまたは地上デジタルチューナー内蔵テレビや地デジチューナーのアンテナ設定等を確認しながら、受信レベルが最大になるように調整します。レベルチェッカーや地上デジタルチューナー内蔵テレビや地デジチューナーのアンテナ設定のレベル値に異常がある場合は、次のことをお確かめください。
受信レベルは60～90dBμV（モニター値:40～70dBμV）が目安です。アンテナレベルの目安はご使用の地上デジタルチューナー内蔵テレビや地デジチューナーの取扱説明書をご覧ください。

症　状	チェック項目	対　策
レベルチェッカーやチューナー、テレビのアンテナ設定で、レベルが表示されない	電源部の電源確認用ランプが緑色に点灯していますか？	電源部のプラグをAC100Vコンセントに差し込んでください。 アンテナやテレビ、チューナーへのケーブルを接続後、電源プラグをAC100Vコンセントに差し込み電源をONしても、電源確認用ランプが緑色に点灯しない場合、F形接栓加工不良などによるショートの可能性があります。 ただちに電源プラグを抜き、接続を確認してください。
	電源部の同軸ケーブル接続は正しいですか？	アンテナ本体側の同軸ケーブルは「ブースタへ」に、チューナーやテレビ側の同軸ケーブルは「テレビへ」に接続してください。
	アンテナと電源部の間に接続されている機器は通電仕様ですか？ または電源部は通電端子に接続されていますか？	通電仕様の機器に変更する、または通電端子に接続してください。
レベルチェッカーやチューナー、テレビのアンテナ設定で、レベルが低い	地上デジタルチューナー内蔵テレビや地上デジタルチューナーはアンテナ本体の出力端子側に接続されていますか？（間違えてモニター側に接続されていませんか？）	地上デジタルチューナー内蔵テレビや地上デジタルチューナーは、アンテナの「出力」に接続してください。
	電波到来方向にアンテナが向いていますか？	ご購入店でお住まい地域の送信局を問い合せるなど電波到来方向を確認してください。 近隣の建物等に反射した電波を受信できることもあります。
	電波到来方向に障害物がありませんか？	障害物のない状態で受信してください。 障害物を避けられない場合でも、アンテナの高さを50cm～1mくらい変化させると改善することがあります。アンテナの設置位置を変化させてみてください。
	電波が弱い	電波が弱すぎる場合は受信できません。
レベルチェッカーのレベルがモニター端子で80dBμv以上（出力端子で100dBμv以上）表示されているが、C/N値が悪いまたは受信できない チューナーやテレビのアンテナ設定で、レベルが高いのに受信状態が悪いまたは受信できない	電波が強い	アンテナの向きを電波到来方向からずらしてください。 （※）

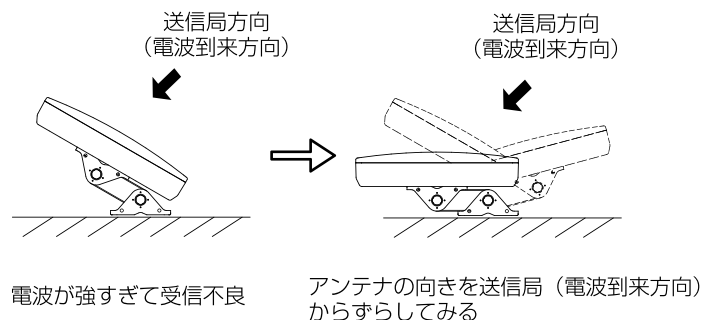
（※）

このアンテナはブースターを内蔵していますので電波が強すぎるとブースターが過入力となり、受信不良になることがあります。
その場合はアンテナの方向を送信局からずらし受信レベルを下げてください。

送信局方向（電波到来方向）

送信局方向（電波到来方向）

電波が強すぎて受信不良

アンテナの向きを送信局（電波到来方向）からずらしてみる

使用上のご注意

- このアンテナではVHF（ch.1～12）は受信できません。
- 地上デジタル放送を受信するためには、一定以上の受信レベルが必要です。電波の弱い場所や周囲に電波を遮ったり、反射するような障害物のある場所など受信レベルが低い場所では、地上デジタル放送がまったく受信できないかまたは時々ブロックノイズがでるなど不安定な受信状態になることがあります。（このアンテナは地上デジタル放送に加え、従来のUHFアナログ放送も受信可能です。ただし、アナログ放送の受信レベルが低い場所では受信できない場合があります。）
- 屋外で設置の場合、アンテナは電波到来方向の障害物をさけるように、できるだけ高い位置に設置してください。（一般的にアンテナの設置位置が高くなるほど受信レベルが良くなります。）
- 屋内で使用していて受信状態が不安定な場合は、アンテナを屋外に設置してください。
- アンテナを設置するとき、ネジ類はスパナなど工具を用いて、しっかりと締め付けてください。
- アンテナはいつも正しい方向に向いているようにご注意ください。
- このアンテナに多量に雪が積もった場合、雪の重みでアンテナが破損する恐れがあります。雪はこまめに払い落としてください。その際、安全には十分注意してください。
- 付属品のスタンドは屋内でのみ使用してください。
- 付属品の電源部を他の製品に使用したり、他の製品の電源部をこの製品に使用しないでください。故障の原因となります。

規格特性

品名	地上デジタル放送用平面アンテナ
品番	UAD1800
受信周波数(MHz)	470～770(ch.13～62)
偏波面	水平または垂直
インピーダンス(Ω)	75(F形)
標準利得(dB)	アンテナ部:7.5～9.5、総合:21～29
最大出力(dBμV)	90
ブースター部雑音指数(dB)	1.2
VSWR	3.0以下
前後比(dB)	16以上
半値幅(°)	80以下
耐風速(m/s)	45(注1)
適合マスト径(mm)	マスト：φ22～49、角柱：30×30～45×45 ステンレスバンド(別売)使用時：φ50以上
方位角調整範囲(°)	±60(壁面取付時)
電源(V/mA)	DC15/30
寸法(mm)	526(H)×303(W)×128(D)(取付金具含む)
質量(kg)	2.1(アンテナ部)、1.1(取付金具)

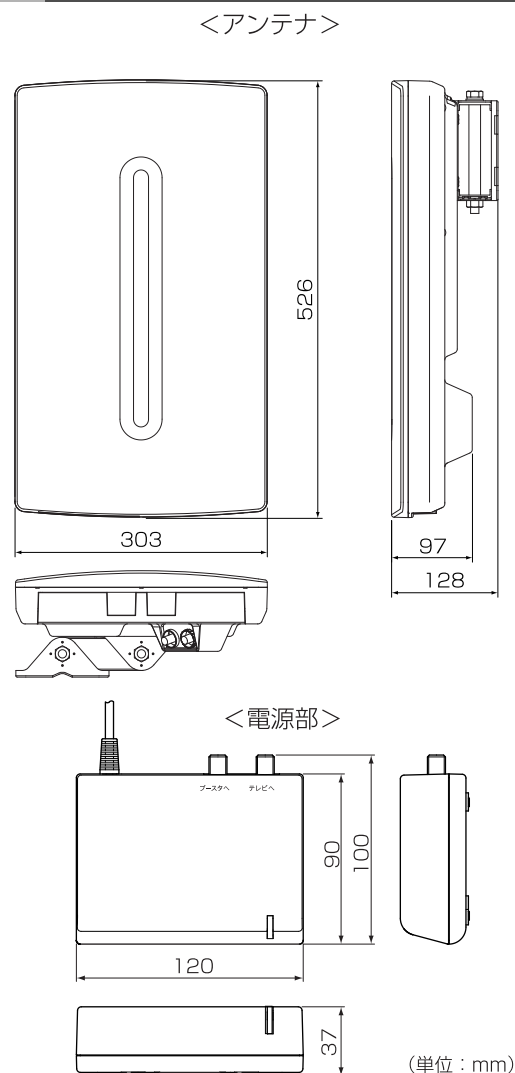
(注1)耐風速は破壊風速です。

＜電源部　PSD-4＞　JEITA表示による(電源部本体の裏面にも表示しています)

使用周波数(MHz)	10～2610
電源(V/W)	AC100(50/60Hz)/10
重畳電源(V/mA)	DC15/700
入出力インピーダンス(Ω)	75(F形)
挿入損失(dB)	0.1～1.5(10～1000MHz)／0.2～2.4(1000～2610MHz)
使用温度範囲(℃)	−10～+40
外形寸法(mm)	37(H)×120(W)×100(D)
質量(kg)	0.25

規格は改良により、変更させていただくことがありますのであらかじめご了承ください。

外形寸法図

(単位：mm)

※この製品を処分するときは、地方自治体のルールに従って処理してください。

詳しいお問合せは、もよりのDX製品取扱店または下記のDXアンテナ各営業所をご利用ください。

・札幌支店 TEL.(011)822-1251(代)
・旭川出張所 TEL.(0166)37-5830(代)
・東北支店 TEL.(022)243-2141(代)
・盛岡出張所 TEL.(019)636-1581(代)
・郡山出張所 TEL.(024)921-7131(代)
・東京支店 TEL.(03)3526-5402(代)
・東京東出張所 TEL.(03)5654-9881(代)
・多摩営業所 TEL.(042)572-4911(代)
・横浜支店 TEL.(045)651-2557(代)
・北関東支店 TEL.(048)652-3311(代)
・宇都宮営業所 TEL.(028)659-1100(代)
・新潟営業所 TEL.(025)276-2166(代)
・茨城営業所 TEL.(029)826-5341(代)
・千葉支店 TEL.(043)253-1121(代)
・静岡営業所 TEL.(054)281-0141(代)
・浜松営業所 TEL.(053)461-6885(代)
・中部支店 TEL.(052)919-6531(代)
・松本営業所 TEL.(0263)27-7801(代)
・豊橋営業所 TEL.(0532)57-2133(代)
・三重出張所 TEL.(059)226-1643(代)
・金沢支店 TEL.(076)261-9988(代)
・富山営業所 TEL.(076)422-7878(代)
・大阪支店 TEL.(06)6304-5651(代)
・堺営業所 TEL.(072)278-5311(代)
・京都営業所 TEL.(075)382-6141(代)
・神戸支店 TEL.(078)579-8550(代)
・姫路出張所 TEL.(079)283-5920(代)
・広島支店 TEL.(082)237-5331(代)
・岡山営業所 TEL.(086)245-2948(代)
・山陰出張所 TEL.(0853)24-2343(代)
・高松営業所 TEL.(087)868-1222(代)
・松山営業所 TEL.(089)925-3826(代)
・福岡支店 TEL.(092)541-0168(代)
・北九州営業所 TEL.(093)922-6556(代)
・長崎出張所 TEL.(095)842-0780(代)
・大分営業所 TEL.(097)504-7799(代)
・熊本営業所 TEL.(096)325-0711(代)
・南九州営業所 TEL.(099)267-8211(代)
・沖縄営業所 TEL.(098)874-6202(代)

(2010年5月現在)

DXアンテナ株式会社

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号 TEL.(078)682-0001(代)　東京支社/〒101-0023 東京都千代田区神田松永町19番地 秋葉原ビルディング8F TEL.(03)3526-6327(代)
カスタマーセンター TEL.(078)682-0455 受付時間 9:30～12:00/13:00～17:00(土曜・日曜・祝日および夏季・年末年始休暇は除く)
ホームページアドレス http://www.dxantenna.co.jp/